

発行所  
**日本聖公会 東北教区**  
 仙台市青葉区国分町2-13-15  
 TEL 022-223-2349  
 FAX 022-223-2387  
 URL <https://nssk-tohoku.com/>

2011年3月11日は、私たちが未来永劫忘れられない記憶となつていきます。否、そうでなければなりません。先日大船渡市で山火事が発生しました。三陸町綾里は、この130年間で3度津波被害に遭われました。1896年明治三陸大津波、1933年昭和三陸津波、2011年東日本大震災では最大40・1mの巨大津波が来襲し27名が亡くなりました。それで高台に家を再建した方々が、今度は山火事に襲われています。「二重苦」「二重の辛苦」と言われますが、私は「三重苦」だと思います。それは消失した家の隣に火災を免れた家が無傷で建っているからです。残酷な風景です。やるせない気持ちになります。東日本大震災のあとには、このように苦しんだ人たちは30万人、いやそれ以上おりました。漁師の佐藤清吾さんもその一人です。大震災で最愛

「東日本大震災14周年記念の祈り」説教  
**「希望のイエス」**  
 主教 フランシス 長谷川 清純

の妻とお孫さんを亡くされた。私が清吾さんと出会った時、清吾さんは打ちのめされ生きる力を失っていました。私たちが一生懸命話したり、さんたちが一生懸命話したり、お手伝いしたりする中で、次第にこれではいかん、とやる気を取り戻せた、皆さんのお蔭ですと感謝され笑顔の清吾さんが見え、



奪われる、海・地球環境を汚染する、何よりも魚や人間の生命を将来的に滅ぼすからだ、という、人が生きる、暮らす上での大問題、大障害だからダメだ、という明確な確信があるからだ、1941年生まれの83歳が語られたのは非常にインパクトがありました。3月9日、13年間水曜喫茶に手作りパウンドケーキを送ってくれた柳城女子大学の先生方や卒業生たちと現役生たち一行が、磯山聖ヨハネ教会に来られました。その朝、水曜喫茶の仲間・佐々木恒子さんの訃報を聞かされて私は言葉を失いました。東京電力福島第一原子力発電所の爆発で拡散した放射性物質の汚染から避難された浪江町、南相馬の人たちの応急仮設住宅での水曜喫茶に初めから顔を出していた恒子さんでした。私は、彼女の口から無念の言葉を一度だけ直接聞かされました。彼女の家は、大震災

数年前に新築したばかりでしたのに避難を余儀なくされ住まわれなくなり「私はとつても悔しいの、腹立つの、もう戻られないし、なんもできない」と強い語気でした。それでも、2022年原発のない世界を求める週間でインタビュ・ビデオ出演した時、「本当に私らに良くしてもらって、有難い、有難い」と感謝を口にしました。88歳の死はいわゆる震災関連死、故郷を追われた人の死だと思います。本日、震災関連死を含めて東日本大震災の死者は2万2千人を超えています。様々な自然災害で亡くなられたすべての方々、世界中で起きている紛争や戦争の犠牲者の魂の平安のために祈りましょう。今現在、言うに言われぬ苦しみや悲しみを背負う人たちに、神様の豊かな慰めと、人々の寄り添いと思いやりが届きますように祈りましょう。私たちの励ましと拠り所にする聖句。「希望が失望に終わることはありません。」(ローマ5:5)。(東北教区主教) (於 主教座聖堂・要約)

# 東日本大震災14周年記念の祈り —自然災害に対する正しい知識を求め— 2025年3月11日(火)

15時10分からは、仙台基督教  
教会礼拝堂にて、東京聖テモ  
テ教会信徒(元仙台基督教  
信徒)で東北大学名誉教授、  
東北大学災害科学国際研究所  
特任教授、内閣府火山防災工  
キスパートである島田明夫さ  
んをお招きし、講演を行って  
いただきました。

島田さんは、今日に至るま  
で日本の災害と防災について  
研究を重ねておられます。こ  
の度は「『まずは防災』備え  
てから祈れ」という演題で、  
地球を学び、命を守り、未来  
を見つめるためのお話を伺い  
ました。

東日本大  
震災から14  
周年を迎え  
ることとな  
りました。  
14時15分  
から、メイ  
ン会場とな  
った仙台  
基督教会  
は八木正言  
司祭司式、  
長谷川清純  
教区主教説  
教により、  
また秋田、  
盛岡、郡山、  
小名浜、あ  
わせて5教  
会にて祈り  
と黙祷を献  
げました。

時代から連続と続く、神から  
受けた私たちキリスト者の  
ミッションだということをも、  
改めて考えさせられる時とな  
りました。短い時間にもかか  
わらず意義深くお話しくだ  
さったことに、改めて深く感  
謝申し上げます。

仙台基督教会礼拝堂のYouTube配信はこちらから  
  
………  
ホームページをご覧ください  
説教全文は教区ホームページです。

皆様、これからも全国の被災地と被災者、原発事故被害者の方々に覚えてお祈りください。

（東日本大震災被災者支援プロジェクトリーダー 浅原 和裕）

## 記念講演(要約) 『『まずは防災』備えてから祈れ』 島田 明夫氏

2010年に東北大学法学  
研究科の教授として赴任し、  
松島の景観計画をする予定で  
したが、東日本大震災を経験  
し自分の天命は防災だと感じ  
防災法の研究を始めました。  
私のモットーは「人間は考え  
るアシである」。アシとは章  
ではなく足。現地に行つて問  
題を把握し考えるということ  
です。今日は現地に赴き、感  
じたり考えたりしたことを踏  
まえて話をしたいと思えます。

世界は震源分布とプレート  
(大陸の大きな岩盤)をみる  
と、地震の震源や火山が集中  
している所のほとんどが、プ  
レートとプレートの境界であ  
ることがわかります。日本は、  
海洋プレートと大陸プレート、  
すなわち北米プレート・ユー  
ラシアプレート・フィリピン  
海プレート・太平洋プレート  
の4つに跨っているため、プ  
レートの沈み込みによって発  
生するプレート境界型の巨大  
地震と大津波、プレートの運  
動に起因する内陸部の地震な  
どが発生しています。四方が  
海に囲まれ、海岸線が長く複  
雑で、地震由来の大津波の被害も起りやすくなります。

東日本大震災は北米プレート  
と太平洋プレートの境界であ  
る日本海溝沿いに発生しまし  
た。特に三陸のリアス式海岸  
は津波の被害を受けやすく、  
これまでも大きな被害を経験



島田 明夫氏

しています。  
次に水害についてみてみます。日本は概ね温帯に属していますが、近年は地球温暖化で亜熱帯化しています。春から夏への変わり目では梅雨前線が日本列島に横たわり活動が活発化し、多量の雨を降らせます。夏から秋は、台風が大きな影響を及ぼします。冬にはシベリア大陸からの乾燥した強い寒気が日本海上で水蒸気を含み、世界でもまれにみる大量の降雪積雪をもたらし、豪雪被害も増加しています。水害・高潮災害に対しても、多くの都市が海や河川の水位より低いため、堤防が決壊すると大きな被害となりやすいのです。また、急な山地・谷地・崖地が多い上、地震や火山活動も活発で、さらに台風や豪雨・豪雪に見舞われやすいという気象条件が加わり、土砂災害も発生しやすい条件

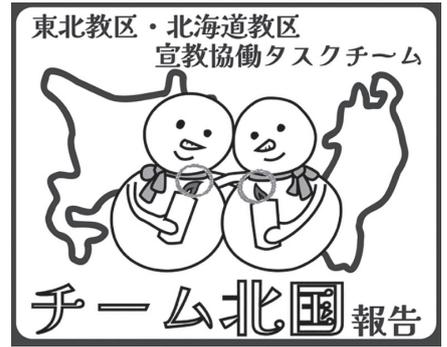
が重なります。近年の林地や傾斜地、その周辺における都市化、太陽光パネルの設置等の土地利用の変化、森林伐採等に起因するものも増えています。  
**災害対策**  
災害対策については2つの取り組みがあります。「防災」と「減災」です。防災は災害そのものを防ぐ取り組み、対して減災とは災害の発生を前提とし被害を最小限に留める取り組みです。阪神淡路大震災以降、減災という考え方が防災と共に重要視されています。減災で特に必要なことは3つ。自分自身で自分の身を守る自助。家族や地域の人など身近な人同士で助け合う共助。行政や自治体がサポートを行う公助、です。災害が大きくなればなるほど公助の割合は小さくなり、自助と共助の重要度が増します。阪神淡路大震災で瓦礫の中から救助された8割以上の人は共助によるものでした。  
**今後の大規模災害**  
首都直下地震の今後30年間の発生率は約70%、南海トラフ地震は同80%、両方とも起

きない確率はわずか6%です。台風も、地球温暖化と日本近海の海面水温の上昇により、大規模災害の発生リスクが高まっています。海面水温が上昇すると、海水の水位が高まり高潮も発生しやすくなります。2019年の台風19号の発生と海面水温の状況をみても、28度以上の海水が日本の近海まで迫っているのがわかります。台風は海面水温が30度以上の海域で発生しますが、台風19号は、海水の蒸発による水蒸気の上昇気流により急激に発達し、勢力を保ったまま日本に上陸横断しました。100年に1度の規模といわれましたが、これは今までの海面水温の話なので、これからも温度が上がり続けるなら毎年このような台風が日本に上陸する可能性は否定できません。また、これまでは東北地方の太平洋側に台風は上陸しないとわかっていましたが、これからはそうはいえず、最近では太平洋から直に東北地方に上陸する台風が出てきています。

私たちはどうすれば良いのでしょうか。「天は自ら助くるものを助く」という言葉があります。アメリカがパリ協定の離脱を決めるなど、地球温暖化に対する世界の取り組みが不確実な昨今ですが、温暖化を防ぐ努力は重要だと思えます。地震に対しては、家を耐震補強すること。家具等にも耐震の工夫をすること。津波は地震発生時から少し後にくるので、その間に高い所へ避難しましょう。洪水はある程度予知・予防ができるので、正確な情報をきちんと把握し、明るいうちに避難を心がけてください。できない場合には2階等に垂直避難してください。避難して大きな被害がなかったとしても「損をした」とは思わず、被害がなかったことを神様に感謝しましょう。それでも100%の安全は保証できません。聖書は「あなたがたを襲った試練で、世の常でないものはありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備

えてくださいます」と語っています。しかし、語源からみても神は本当に耐えられない試練を与えないということです。人には乗り越えられない「死」という試練があります。ヨブ記に倣い、神に助けを求めること。その苦しみや不安や悲しみから逃れられない人間だからこそ、神に委ね助けを求めるときも必要だと思えます。死を免れることは出来ませんが、私たちに永遠の命が与えられているのですから、祈る。それが私が言いたかったことです。  
(文責 東日本大震災被災者支援プロジェクト 八木 陽子)

島田 明夫氏 東京聖テモテ教会信徒。1980年 東京大学経済学部卒業。2006年 東京大学博士号取得(工学)。1980年 建設省入省。1990年から3年間在英日本大使館一等書記官。その後、国土交通省各部門を経て、2007年 東京大学客員教授就任。2010年 東北大学法学研究科共政策大学院教授就任。現在 東北大学名誉教授、同大災害科学国際研究所特任教授、内閣府火山防災エキスパート。



北海道教区  
クララ 吉谷 かおる

新年度を迎えて北国もいよいよ春。雪がとけて花の季節になりましたが、この隔月掲載の「チーム北国報告」では、前回からロゴがかわいい雪だるまに変わっていることにお気づきでしょうか。この雪だるまは宣教協働の絵本『北のあけぼのーさあ、光を灯そうー』にも登場しています。ふたり(?)の愛称を募集したので、みなさんに考えていただくと嬉しいです。

チーム北国では今年もコア・ミーティング(月1回対面とオンライン交互)と4つのセクションのミーティング

(ほぼ月1回)を開催していきます。新教区名、主教座聖堂、新教区事務所機能についての検討が次第に具体的になり、主教座聖堂とは何かについての学び、財政の課題の洗い出しや委員会などの組織のすり合わせが進められています。

予定としては、4月22日のチーム北国全体ミーティング、5月14日の北海道・東北合同常置委員懇談会が、情報共有の機会になります。また来年4月1日の新教区設立を目指す北関東・東京教区の進捗も参考としています。

新教区設立に向けて、みなさんの疑問に答え、関心を深めていただけるように、わかりやすい視覚資料「知ってほしい1・2・3」を作成しました。いろいろな機会にご活用ください。チーム北国のホームページの準備も進んでいます。4月29日の北海道教区宣教協議会(2025)でも、東北教区とのつながりが強められそうです。よい季節、両教区の間にはたくさんの出会いと交わりがありますように。

教会の歴史は1892年、北海道にキリスト教的理想郷を創ろうという志から集まった青年たちの入植に端を発します。他教派の仲間たちとの開拓の日々の中、1896年3月に茅葺き屋根の聖堂を建て、聖公会としての礼拝の場が完成し、1968年に現在の寒冷地高床式聖堂が建てられました。今金町は何度も清流日本一となった利別川の流れる農業、酪農が中心の町です。多くの信徒は日曜日の仕事の後、夜に教会堂に集まり礼拝を捧げています。



## 「U26全国集会 報告」

盛岡聖公会 アポロ 武藏 陽治

2月22日から24日、大阪府少年自然の家にて「U26全国集会」が開催されました。全国集会の対面開催は実に5年振りのことです。全国各地から20人ほどの青年が集まり、「今こそ！知ろう、語ろう、つながろう！」というテーマのもと、交流を深めました。

1日目はまず、アイスブレーキングとして謎解きクイズをしました。初対面の人が多かったのですが、このレクリエーションで一気距離を縮めることができました。その後、創世記2章18節の聖句をもとに分ち合いを行いました。この分かち合いでは互いに助け合う存在が必要なのだと改めて実感しました。

2日目は施設内の体育館で利き手禁止ドッジボールや紙飛行機飛ばし大会などのレクリエーションが行われま



した。こうした機会は久々でしたが、とても充実した時間となりました。その後、マタイによる福音書をもとに、み言葉の分かち合いを行いました。ここでは私たちに与えられたの賜物は何かを考えて共有し、教会こそが神様に与えられた賜物なのだということを実感しました。

3日目は全体の振り返りと青年活動の今後を話し合いました。この話し合いは活発なものとなり、これを通して私は今回の全国集会で生み出されたエネルギーを絶やすことなく、次に繋げることが重要だと感じました。

今回の全国集会で同じ思いを持った同世代の青年と出会えたことは私の人生の中でも大きな経験となりました。このような機会をくださった運営委員会の皆様、そして快く送り出してくださった東北教区の皆様に感謝いたします。今後活動を進めてまいりますので、応援の程よろしくお願いたします。



### 『イチジクの木の下で』 神の国を求めて

盛岡聖公会

ローレンス 土居 和喜



盛岡の「聖書に親しむ会」は聖書協会「新共同訳」と「共同訳」を読み比べて表現の違いを確認し合い、ケセン語訳聖書を著者山浦玄嗣氏ご本人の迫力ある音読で聴き、最後に山浦氏の解釈を学び意見を交換し合っ聖書の理解を深めており、研修の構成や共感的受容で接する司牧者に感謝です。

ところで近頃老いもあるのかよく心身が不調になり、思うような活動ができず一抹の不安や寂しさを覚え、喜怒哀楽の中に罪や煩惱、病苦に懊悩し、一向に心の平穏が保たれず信仰の薄さを恥じていま

す。

私と聖公会の出会いには47年前30代で自己確立できず、自己防衛が強く、精神的ストレスにより身体面の障害が生じやすい過敏で不安定な時期でした。そんな時臨床心理学者カール・ロジャースが提唱したカウンセリング『BASIS COUNSELLING』を受講しました。その中に早稲田大学教育学部三島二郎教授の論文要旨がありそれは「人間への不信とは常に自己への不信の投影に外ならない。自己とはそれに対するものを認めることよってのみ自覚せられるものであり、汝との出会いこそが自己認識、人間性発見となるのである。自己は汝を契機としてのみ自己の内なる真実を見出し、汝の内なる人格と触れ合うこととなるのである。宗教哲学者のフーバーはこれを『出会い』と呼んでいるが、これを通じて相互の人格は更に高い価値に到達することになり、ここに生きる勇気の源泉を見ることになる。要するに人間の苦悩とは汝を通じての自己の認識を認め得ない状態のことで

あり、生ける喜びとはかかる出会いを通じての自己の内なる人格を確認し得たことに外ならない」とあり『BASIS COUNSELLING』我と汝との根源的出会いが如何に重要であるかを次の聖句を想起させました。ルカ17・20に「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなた方の間にあるのだ」とあり、山浦氏は「神の国とは天国ではなく人と人との交わりの間にあり、神が統治する状態なのだ」と解説しています。最後にマルコ1・15に「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」山浦氏は「待ちに待った神様の統治は今まさにここにあり。心をスッパリ切替え、これからはこの『よきたより』にその身も心も委ね続けろ」と読み解いています。忍耐力に欠ける私ですが、人との交わりの中で自己認識を深め、あるがままの実態を受容し、仮面の自己を解放し、心を切替えて主の再臨まで神のみ心にかなう行いができるよう願ひ続けます。

### 常置委員会報告 (第5回・3月7日)

#### 報告事項

▼主教報告・パウロ有我忠幸 聖職候補生は2024年度聖公会神学院「特任聖職・特別コース・オンライン講座」を修了。

#### 協議事項

▼九州教区主教座聖堂の聖堂聖別式に教区代表として赤坂有司常置委員長が出席する。  
▼山形聖ペテロ教会牧師館への信徒居住許可および貸与について協議。  
▼新規プロジェクト「2025修養会実施プロジェクト」の設立が主事会議より提案され承認。  
▼奉仕職養成グループより研学資金の申請（「奉仕のススメPart8」開催、「聖公会神学院オンライン講座受講者受講料」があり承認。  
▼規則・規程グループより旅費規程、教役者給与規程の改正案が提案され承認。教役者給与規程に関しては次期定期の教区会の議案とする。また、奉仕職養成グループ規程については再検討を依頼。

### 東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

3月9日(日)の「水曜喫茶」

は学校法人柳城学院関係者、同ことも学部教授の村田康常氏の引率による17名の訪問を受け、磯山聖ヨハネ教会を会場に行われました。逝去された喫茶仲間への哀悼の祈り、信徒三宅信一さんの津波に浸かりながらの避難のお話、復刻の銘菓「柳城手作りケーキ」の差し入れと恒例の抹茶と、教会からは大粒の「原町いちご」で歓談。ハンドマッサージの癒しとバルーンアートの至芸を堪能。その後、東日本大震災14周年を覚えて「祈りの庭」で祈りを献げました。海は何処までも青く静謐でした。遠路よりのご訪問に感謝、皆さんの行く手に主のご加護を祈ります。



(リーダー 浅原和裕)



### 盛岡聖公会

昨年末にクリストファー増田友之・セシリア増田由紀子ご夫妻、今年になってペテロ阿部禧典さんを天に送ることになってしまいました。3人の盛岡聖公会への功業に深謝するとともに天上からの見守

りがあるように祈るばかりです。

そのような中、今年度より釜石神愛教会との合併によりブリジエツト紺野千佳子さん、カタリナ高橋仁美さん、コルネリオ松田清高さん、ハンナ松田八枝さん、4人の方と新たな信仰の交わりをもつことになりました。また、日本福音ルーテル教会よりラザロ井上聡さんが転入され、1月12日に堅信式が行われました。これから共に、より豊かに宣

### 5月4日は「東北教区の青少年の日」です

教区の青少年たちの活動を覚え、お祈りください。この主日のためにお献げいただいた信施は、東北教区の青少年活動、管区等青少年プログラムへの参加補助等に用いられます。

### 東北教区の青少年のための祈り

あなたの若い日にあなたの造り主を覚えよ、と聖書のうちに教えてくださった主よ、私たちは東北教区の教会の青少年を覚えて祈ります。どうか一人ひとりの心を励まして、喜びと希望を持って信仰の道を歩むことができますようお導きください。青少年たちが互いに出会い、祈り、語り合う中で交わりの輪が豊かにされますように。そして教会の中で、また社会の中でその務めを果たすことができますように。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

教の器として希望をもって歩んでいけたらと思います。

長年の懸案であった私書箱(信徒のメールボックス)をいよいよ具体的に設置したく動きだしました。まずは、玄関の掲示用の黒板を移動したところ、玄関の広いことに驚きました。今度は引き出し付きのレターケースを人数分設置したいと思います。この原稿が掲載されるころには設置できていれば嬉しいかな。

### 磯山聖ヨハネ教会

昨年の12月21日「聖書とキャロルと光のクリスマス」、聖歌82番「みつかいの主なるおおきみ」が仙台基督教会聖歌隊によって歌われた。聖書朗読は近所の人も含め50人程の参加者が静かに耳を傾けた。9月、アジア学院の研修生と主教が祈りの庭で礼拝。庭から見える海を指しながら津波のことを通訳してもらったけど、伝わったかなあ。遡って4月13日、初めての試みとして「ちびっこイースター祭」。物語の読み聞かせ。卵に色を付けてイースターエッグ作り。

祈りの庭は2020年「新地町津波緊急避難所」に指定、2022年「東北お遍路巡礼地」に認定。慰霊と鎮魂。大震災におびえていた時、水曜喫茶は名古屋柳城大学学生による手作りのお菓子など長期間支援を受け、その優しさに感謝。先輩学生の「信じろ」という心は、後輩に、更に後輩にと引き継がれてきたのだらうと思いました。17名の学生、今まで携わってくださった方々に、水曜喫茶は心から感謝しております。

震災の記憶が薄らぐ中、自然の脅威を多くの人と共有したい。

### ヴァイアルクラブ会員募集

2025年度の会員を募集しています。

個人：2,000円 団体：20,000円

お申し込みは教区事務所まで



### 2025年開所式

4月26日(土)13時～  
ぜひご参加ください。

### ヴァイアル山荘関連

### 永遠の平安

マリヤ 平賀 てる子  
(3月18日・盛岡)

### 5月逝去者記念聖餐式

5月7日(水) 午前10時、  
於 主教座聖堂  
司式説教 長谷川清純 主教

- 司祭 Allan Worthington Cooke  
1944年5月6日逝去
- 司祭 ヨハネ 齊藤政信  
2023年5月12日逝去
- 宣教師 Miss Irene P. Mann  
1927年5月19日逝去
- 司祭 アントニオ影山博美  
2020年5月20日逝去
- 宣教師 Miss Dorothy F. Hittle  
1940年5月28日逝去
- 司祭 バルナバ 与賀田千秋  
1997年5月28日逝去
- 司祭 ナタナエル 佐々木正市  
1996年5月29日逝去

